



2023年9月秋号

Tachibana Junior High School

横浜市立 **橘中学校** 学校だより

「ひらかれた心で 人とつながる」

校長 兼田宗明

本校に「**スクールモットー**」(教育理念)を設定しました。もっと「ひらかれた心」で「人とつながる」ために、これから学校の様子について少しずつですが情報発信の機会を増やしていこうと思います。

やりぬくということ

夏休み明けの放送集会で全校生徒に向けて次のことを話しました。

今日からまた学校生活が再開します。夏休み前にお話をした「自分のために何でもいいですから良いと思うことを何か一つでもやってみませんか」を意識できていましたでしょうか。

今年の夏は日本全国どの地域でも酷暑と呼ばれるほど気温で熱中症アラートが出るなど危険な日にちが続きました。そのなかでも皆さん自分自身に向き合うことができましたでしょうか。

しばらくぶりに会う仲間たちとコミュニケーションをとり、行事や学習にそしてその他の活動に存分に力を発揮してほしいと思います。

酷暑の中、この夏自分のために何かやることができましたか。やり続けることができればなおのことです。そしてその先のやりぬいた記憶はありますか。勉強、部活、早寝早起き、地域のお祭りに参加するなんでもいいです。

やれたと自信をもっていえる自分に成長して行ってほしいと思っています。何も夏休みのことだけではありません、これからでも遅くありません。自分のためになることをやってみよう。やり続けてみよう。そんな君たちを私は応援したいと思います。

保護者説明会を動画配信で

(部活動説明会、学校説明会、修学旅行と自然教室説明会、進路説明会など)

年度初めには学校に来る機会がとても多くなります。少しでも保護者の方の来校へ負担を減らすために、今年度から動画による説明の機会を設定しました。様々なご意見はいただいておりますが、おおむねご自身の都合で閲覧できると好評のようです。時代の流れに沿った対応が必要であると感じています。学校における教育活動は大変多岐にわたっており、皆さんの理解と協力のもとで成り立っていると実感しています。今後も生徒や保護者、地域の声を拾い上げていくことに努力をしていきたいと思っています。

部活動の活躍 (県大会以上の出場について種目のみを紹介します)

- ◇ 陸上競技 全国大会 男子共通 800m
 関東大会 男子共通走り幅跳び、男子共通円盤投げ
- ◇ バスケットボール 県大会 ベスト8
- ◇ ハンドボール 県大会 ベスト16
- ◇ 全日本少年軟式野球大会 優勝 (横浜クラブとして橘中学校から1名出場)

9月の主な学校行事

体育祭 ◇ 日時 9月26日(火) 9時から @本校グラウンド

【体育祭実行委員長からのメッセージ】

いよいよ体育祭は1か月後となりました。今年のスローガンは、「協力、全力、活力=パワー³～Let's enjoy 笑顔あふれる青春の1ページ～」です。皆さんで思い出に残る最高の体育祭にしましょう。今年から保護者や地域の方々の参加が従来通りに戻ります。応援してくれる人もたくさんいて、より活力ある体育祭になること間違いなしです。競技としては、これまでの「八の字跳び」が「大縄跳び」になります。よりクラスでの団結力が試されます。9月のテスト明けから、学年練習や昼休みの練習が始まります。くれぐれもケガに気を付けてたくさん練習してください。そして今年は踊りたくなるような音楽をたくさん用意しています。全校生徒が応援席でも楽しめるような体育祭をつくっていきます。さらに、お昼休憩後には「ハーフタイムショー」というダンス発表を用意しました。有志の参加を募集します。詳しくは学年の廊下にポスターがあるので興味がある人はぜひエントリーしてください。一緒に楽しいショーを作りましょう。

何をするにも自信をもってやる ～衣笠選手の言葉から考えること～

厳しいプロ野球の世界で、2,215試合連続出場を成し遂げた伝説の選手がいます。

衣笠祥雄選手です。この選手が大偉業を成し遂げる要因として後に語った言葉があります。「何をするにも自信をもってやる」の一言でした。この言葉の裏側には、あきらめなかったり、目標を持ったりし、やり続けた実体験を持っているからこそ生まれる言葉です。

この鉄人衣笠選手でさえ時にはスランプやけがで思うように動けなかったりしたそうです。骨にひびがあったりしても常に打席に立ち続けました。そして選手として最後の引退試合を迎えたとき、彼は自分自身に「最後の打席で何がしたい？」と自分自身に尋ねたそうです。その時衣笠選手自身はこう答えました。

「ホームランを打ちたい、必ず打てる。今日まで俺は最後の打席でホームランを打てるはずの練習をしてきたから」

と自分自身に答えたそうです。頭の中で打ちたいコースを思い描き、会心の手ごたえで打ったシーンを何度も想像したそうです。迎えた最終打席、思い描いた通りの歴史に残るホームランを衣笠選手は打ちました。

私たちは、本当の自信というものをなかなか簡単には持てません。つらい時や苦しい時にはへこたれるし何もかも嫌になってしまいます。今の皆さんには「自信」といえるものがありますか？自信をもってやり切ったといえるようなことが何か一つでもあって過ごしてほしいものです。そのためにはコツがあります。凡事徹底やり続けることがとっても大切なような気がします。素敵な学校生活を過ごせるか過ごせないかは実は自分自身の過ごし方にかかっていると思います。どんな小さなことでもトライしてみよう。それが君たちの自信や幸せにつながるかもしれません。

こちらからも学校だよりをご覧くださいませ

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/tachibana/>

